

# 広報 **なみえ** 第600号記念特集

1963年（昭和38年）5月1日創刊

「広報なみえ」は2016年1月号で、第600号を迎えました。これもひとえに町民の皆さまのご支援ご助力の賜物と、心より感謝申し上げます。この50余年の歳月にわたり「広報なみえ」は、親しみやすく読みやすい広報誌であることを心がけながら、町民と行政をつないでまいりました。「あなたと町を結ぶ広報」として、震災後その役割は更に大きくなっています。これからも町民の皆さまにとってより良い広報誌となるよう努めてまいりますので、変わらぬご理解とご協力を、よろしくお願い致します。

## 町職員が選んだ「記憶に残っている出来事」

職員の皆さんに『浪江町で最も思い出に残っている出来事』というお題で、過去50年にわたる浪江の歴史や「思い出」を振り返っていただきました。



〈1999年（平成11年）11月号〉

1999年（平成11年）10月4日（木）、天皇皇后両陛下が来町された当日は晴天に恵まれ、町の中心部には沢山の町民が集まり両陛下を歓迎しました。当時、広報の記録担当として町内の各所に配置され、その様子を写真に収める任務についていました。一か月も前から細部に渡り入念な準備が必要とされましたが、美智子妃殿下の一つひとつのお言葉や行動からその美しさも去ることながら、人柄の良さ、そして物腰の柔らかさ、全てが滲み出ていました。とても良い思い出として記憶に残っています。

副町長 宮口勝美



復興推進課 金山信一

1980年（昭和55年）6月21日（土）に浪江町第一町民体育館で行われたピンク・レディーのコンサートの思い出が印象に残っています（このコンサートのわずか3か月後に解散宣言）。



私は当時9歳の小学生で、電飾で彩られた舞台の華やかさを覚えています。あの当時は、ドリフターズや堀ちえみなど多くの著名人が浪江町でコンサートをしていました。

総務課 佐藤良樹

1998年（平成10年）8月14日（金）に開催されたサマーフェスティバル「東遊記'98」の花火大会がとても思い出深いです。その日は台風が接近し海は荒れ、風も強まっていた。花火大会の開催さえも危ぶまれる中で決行されました。しかし、風の強さが逆に功を奏し、煙がすっきりと捌け、これまでにない本当に綺麗な花火でした。雨にも負けず、大会を成功させようという実行委員の強い気持ちが伝わりました。できることならば、もう一度あの花火を見たいものです。



〈1998年（平成10年）9月号〉



生活支援課 鈴木 創

「寄ってらっしゃい！見てらっしゃい！」の聲が延々と聞こえてくる十日市祭名物のお化け屋敷は今でも忘れられません。

お化け屋敷の前にはろくろ首が飾ってあって、奥に見世物小屋、そしてお決まりのアナウンス。子どもながらに、お祭りの2～3日前からそれが楽しみで眠れませんでした。家がお祭りで賑わう通りのすぐ側だったこともあり、浪江の思い出という十日市のお化け屋敷が浮かびます。



〈2006年（平成18年）11月号〉

総務課 上野幹一

町の無形民族文化財に指定され、火防を祈禱する「裸参り」は、極寒の2月に裸の男たちが水を浴びせられる奇祭です。不思議な事に苦しいことほどいい思い出になるもので、走りきった達成感や沿道の皆さんの活気が今もよみがえります。



〈1999年（平成11年）3月号〉



裸参りは、走る人と水をかける人があってはじめて成り立つわけです。一人で走っても、へんなおじさんです。人がいて、町があって、文化がある。今では、懐かしさやこれからの伝承など、いろいろな気持ちになりますね。